

Asia Indicators

発表日: 2026年2月20日(金)

インド・1月はロシアからの輸入が大幅下振れ(Asia Weekly(2/16~2/20))

~金価格の上昇を受けて、輸出入双方で金・宝飾品関連が活発化する動きも~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/16(月)	(シンガポール)1月非石油輸出(前年比)	+9.3%	+12.1%	+6.1%
	(タイ)10-12月実質GDP(前年比)	+2.5%	+1.0%	+1.2%
	(フィリピン)12月海外送金(前年比)	+4.2%	+3.3%	+3.6%
	(インド)1月輸出(前年比)	+0.6%	--	+1.9%
	1月輸入(前年比)	+19.2%	--	+8.8%
2/18(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	2.25%	2.25%	2.25%
2/19(木)	(オーストラリア)1月失業率(季調済)	4.1%	4.2%	4.1%
	(マレーシア)1月消費者物価(前年比)	+1.6%	+1.6%	+1.6%
	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	4.25%	4.25%	4.50%
	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	4.75%	4.75%	4.75%
2/20(金)	(ニュージーランド)1月輸出(億NZドル)	62.1	--	75.1
	1月輸入(億NZドル)	67.3	--	76.0
	(マレーシア)1月輸出(前年比)	+19.6%	+15.1%	+10.2%
	1月輸入(前年比)	+5.3%	+8.8%	+9.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]~価格上昇を受けて金が輸出入双方で活発化、ロシアからの輸入が大幅に下振れする動きも確認~

16日に発表された1月の輸出額は前年同月比+0.6%となり、前月(同+1.9%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少するとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、金価格の上昇などを受けて宝飾品関連の輸出は堅調な動きをみせる一方、機械製品関連や鉱物資源関連、縫製品関連、農産品関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。国・地域別でも、トランプ関税の影響を受ける形で米国向けが下振れするとともに、EU向けや中東向けも鈍化しているほか、米国との関係悪化の背後で底入れの動きをみせてきた中国向けにも一服感が出ている。一方の輸入額は前年同月比+19.2%となり、前月(同+8.8%)から伸びが加速している。前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、輸出と対照的な動きをみせている。財別では、原油をはじめとする鉱物資源関連の輸入に下押し圧力が掛かる一方、機械製品関連の輸入は堅調な動きをみせるとともに、金価格の高騰を受けて宝飾品関連の輸入が大幅に拡大したことが輸入全体を押し上げている。国・地域別では、

ウクライナ戦争以降に原油や肥料などの輸入拡大が続いたロシアからの輸入が大きく下振れしている。結果、貿易収支は▲346.80億ドルと前月（▲250.40億ドル）から赤字幅が拡大している。

図1 IN 貿易動向の推移

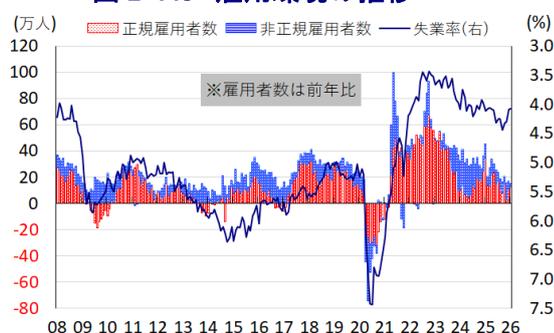


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[オーストラリア]～地域ごとにばらつきはあるが、正規雇用を中心とする雇用拡大が続くなど堅調さを確認～

19日に発表された1月の失業率(季調済)は4.1%となり、前月(4.1%)から2ヶ月連続の横ばいで推移している。失業者数は前月比▲0.2万人と前月(同▲3.1万人)から4ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移している。雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数は前月比+1.4万人と4ヶ月ぶりの拡大に転じる一方、正規雇用に対する求職者数(同▲1.6万人)は2ヶ月連続で減少している。一方、雇用者数は前月比+1.8万人と前月(同+6.9万人)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移している。雇用形態別でも非正規雇用者数は前月比▲3.3万人と3ヶ月ぶりの減少に転じる一方、正規雇用者数は同+5.0万人と2ヶ月連続で拡大しており、正規雇用を中心に改善の動きが続いている。地域別では、これまで雇用改善の動きをけん引してきた最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州で悪化する一方、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州は改善するなど対照的な動きをみせている。また、商品市況の堅調さを反映して西オーストラリア州も堅調な動きをみせており、地域ごとにばらつきがみられる。労働力人口は前月比+1.6万人と前月(同+3.8万人)から2ヶ月連続で拡大し、労働参加率も66.7%と前月(66.7%)から横ばいとなるなど歴史的な高水準で推移しており、雇用環境の堅調さがうかがえる。

図2 AU 雇用環境の推移

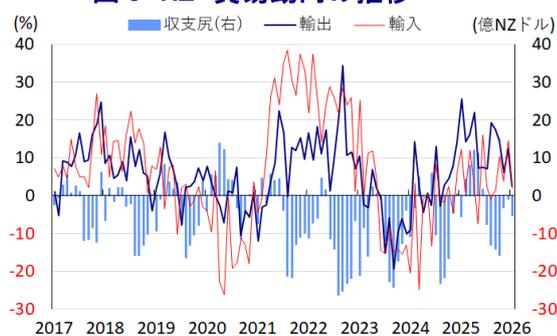


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【ニュージーランド】～主力の乳製品のみならず、幅広い分野で輸出が下振れしており、貿易赤字幅も拡大～

20日に発表された1月の輸出額は前年同月比+2.6%となり、前月（同+12.7%）から伸びが鈍化している。前月も▲2.1%と前月（同+5.7%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているうえ、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちしている。財別では、食肉関連の輸出は拡大する一方、主力の輸出財である乳製品関連の輸出が下振れするとともに、材木・木材製品関連、原油、機械製品、果物、魚介類など幅広い分野で輸出が減少しており、全般的に輸出に下押し圧力が掛かっている。国・地域別でも、一部のASEAN諸国向けやメキシコ向けなどで拡大する一方、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国向けやEU向け、日本向けなど幅広い国・地域向けの輸出が下振れしている。一方の輸入額は前年同月比+1.9%となり、前月（同+14.6%）から伸びが鈍化している。前月比も▲3.3%と前月（同+4.7%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少に転じるなど頭打ちしている。財別では、原油や石油製品関連の輸入は横ばいで推移するも、機械製品関連や電気機械関連など幅広い分野で輸入が下振れしている。結果、貿易収支は▲5.19億NZドルと前月（▲0.88億NZドル）から赤字幅が拡大している。

図3 NZ 貿易動向の推移



【マレーシア】～インフレ率は横ばいで推移、財価格は落ち着いた動きが続くも、サービス物価に上昇圧力～

19日に発表された1月の消費者物価は前値同月比+1.6%となり、前月（同+1.6%）から2ヶ月連続の横ばいで推移している。前月比は+0.15%と前月（同+0.30%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格に上昇圧力がくすぶる動きはみられるものの、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きに一服感が出ており、生活必需品のインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.3%と前月（同+2.3%）から2ヶ月連続の横ばいで推移しているものの、インフレ率に比べて高止まりしている。前月比も+0.45%と前月（同▲0.07%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、金融市場における通貨リング相場の上昇を受けて輸入物価に下押し圧力が掛かるなか、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、サービス物価が上昇の動きを強めている。

20日に発表された1月の輸出額は前年同月比+19.6%となり、前月（同+10.2%）から伸びが加速している。前月比も+8.4%と前月（同+6.5%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。種類別では、輸出の先行き不透明感を反映して中間財関連の輸出は下振れしているものの、消費財関連の輸出は堅調に推移するとともに、世界的な投資活動の

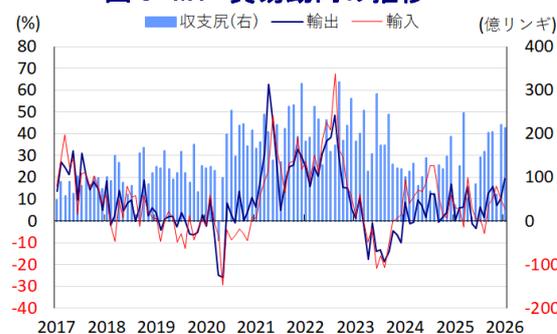
活発化を受けて資本財関連の輸出は旺盛な動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+5.3%となり、前月（同+9.5%）から伸びが鈍化している。前月比も▲2.7%と前月（同+3.7%）から5ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。種類別では、消費財関連の輸入は旺盛な動きをみせる一方、輸出の先行き不透明感を反映して中間財関連で輸入が大きく下振れしている。結果、貿易収支は+213.65億リングと前月（+220.66億リング）から黒字幅が縮小している。

図4 MY インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図5 MY 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～中東からの移民送金は鈍化も、米国やアジア、欧州からは堅調な流入、ペソ安も内需を下支え～

16日に発表された2025年12月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+4.2%となり、前月（同+3.6%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な動きをみせている。国・地域別では、国際原油価格の低迷などを受けて中東からの流入に下押し圧力が掛かる一方、雇用環境の底堅さを反映して米国からの流入は引き続き堅調な推移をみせるとともに、日本や台湾などのアジアからの流入や欧州からの流入も底堅い動きをみせている。さらに、国際金融市場における通貨ペソ安の進展を受けて、ペソ建てで換算した流入額は押し上げられており、個人消費など内需を下支えすることが期待される。

図6 PH 海外送金の推移



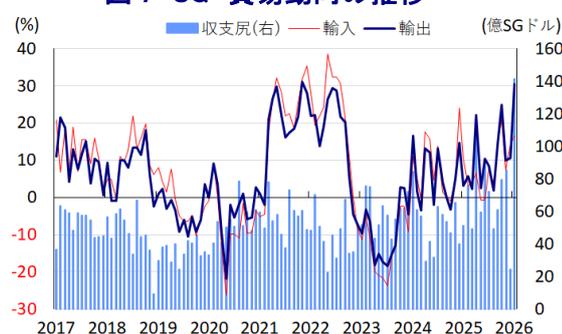
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成、季節調整値は当社試算

[シンガポール]～輸出入双方で底入れの動きが続いており、単月ベースの貿易黒字額は過去最高を更新～

16日に発表された1月の非石油輸出額は前年同月比+9.3%となり、前月（同+6.1%）から伸びが加速している。前月比は+0.68%と前月（同▲8.80%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大基調で推移するなど底堅い動きをみせている。財別では、主力の輸出財である電力バルブなど機械製品関連のほか、化学製品関連などで拡大する一方、半導体な

ど電子部品関連の輸出は減少しており、業種ごとにばらつきが生じている。なお、原油関連を合わせた総輸出額は前年同月比+30.4%となり、前月（同+10.6%）から伸びが加速している。前月比も+17.6%と前月（同▲2.1%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど持ち直しの動きを強めている。一方の輸入額は前年同月比+16.6%となり、前月（同+14.2%）から伸びが加速している。前月比も+5.4%と前月（同+2.8%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に持ち直しの動きを強めている。輸出の先行き不透明感を反映して機械製品関連で軒並み下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、化学製品関連や鉱物資源関連などの輸入拡大の動きが全体を押し上げている。結果、貿易収支は+141.55億SGドルと前月（+24.19億SGドル）から黒字幅が拡大して単月ベースで過去最高を更新している。

図7 SG 貿易動向の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。